

令和5年度 第1回 関西広域防災計画策定委員会 議事録

1 開催日時	令和5年9月22日（金）10時00分～11時40分
2 場 所	兵庫県災害対策センター1階災害対策本部室（オンライン併用）
3 出席者等	別添「出席者名簿」のとおり
4 事務局	遠藤局長、池田次長、城下参事、陰山課長、横山課長補佐、川端課長補佐、明石主査、村井事務官、宗石事務官
5 議事事項	(1) 委員長、副委員長の選任について (2) 新型コロナウイルス感染症対応検証報告書（案）について (3) 関西防災・減災プランの改訂案について
6 議事概要	
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今から令和5年度 第1回 関西広域防災計画策定委員会 を開催いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めさせていただきます、広域防災局の川端でございます。どうぞお願いいたします。</p> <p>会議の開催にあたりまして、広域防災局長の遠藤よりご挨拶させていただきます。</p>
事務局	（ 遠藤局長 あいさつ ）
事務局	続きますして広域医療局様の方から梅田次長よりご挨拶お願いいたします。
広域医療局	（ 梅田次長 あいさつ ）
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、本日は令和5年度第1回目の委員会であり、委員さまの改選もございましたので、会議に先立ちまして、出席者名簿の順に沿ってご紹介させていただきます。なお、現地にて出席予定の兵庫県消防協会会長の安満委員ですが、本日の委員会は欠席となりました。また、荒木委員ですが、業務の都合上、遅れてリモート参加されるとお伺いしておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>・ 京都府立大学生命環境科学研究科准教授 荒木委員でございます。 （入室されたのでご紹介。）</p>

- ・たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」代表 太田委員でございます。
- ・阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター長 河田委員でございます。
- ・公益社団法人関西経済連合会理事 神田委員でございます。
- ・兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科教授 木村委員でございます。
- ・徳島大学環境防災研究センター特命教授 中野委員でございます。
- ・和歌山大学システム工学部准教授 平田委員でございます。
- ・奈良学園大学保健医療学部教授 堀内委員でございます。
- ・福知山公立大学地域防災研究センター特任教授 水口委員でございます。
- ・関西大学社会安全学部教授 山崎委員でございます。
- ・京都大学防災研究所教授 矢守委員でございます。

オブザーバーとして、陸上自衛隊中部方面総監部、近畿管区警察局、第五管区海上保安本部、大阪府下消防長会、福井県、三重県、鳥取県のご担当者にも参加いただいております。また、事務局として、構成府県市も参加しております。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、会議開催前に事前に送付させていただきますが、資料は、全部で18点でございます。

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・資料1-1 令和5年度 関西広域防災計画策定委員会について
- ・資料2-1 新型コロナウイルス感染症対応検証報告書（本体・案）
- ・資料2-2 別冊資料集
- ・資料3-1 関西防災・減災プランの概要
- ・資料3-2 関西防災・減災プランの改訂概要
- ・資料3-3① 総則編及び地震・津波災害対策編（本編）
- ・資料3-3② 地震・津波災害対策編（新旧対照表）
- ・資料3-4① 風水害対策編（本編）
- ・資料3-4② 風水害対策編（新旧対照表）
- ・資料3-5① 原子力災害対策（本編、付属資料）

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料３－５② 原子力災害対策編（新旧対照表） ・資料３－６ 感染症対策編（新旧対照表） ・参考資料１ 関西広域防災計画策定員会設置要綱 ・参考資料２ プラン改訂スケジュール <p>また、直前の送付になりましたが、新型インフルエンザ等対策専門部会の委員名簿を参考資料として配布しております。</p> <p>不足はございませんでしょうか。不足等ございましたら事務局まで、お申し出ください。</p>
各 委 員	（ 資料不足なし ）
事 務 局	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>本日ご審議いただきます議案は次第に記載のとおり、「(1)委員長、副委員長の選任について」、「(2) 新型コロナウイルス感染症対応検証報告書（案）について」、「(3) 関西防災・減災プランの改訂案について」の3件でございます。</p> <p>本委員会の議事進行につきましては、委員長が行うこととなっておりますが、委員長につきましては現在未選出でございます。</p> <p>会長が選出されるまでの間、事務局川端が議事を進行させていただきまので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議題１「委員長、副委員長の選任」について、ご審議いただきたいと思ひます。</p> <p>委員会設置要綱の第４条第２項において「委員長は委員の互選によって定める」こととしております。</p> <p>誠に僭越ですが、事務局からの提案させていただきます。</p> <p>平成23年度に設置しました本委員会の委員長をこれまで務めていただいていた河田委員に引き続きお願いしてはどうかと存じますが、いかがでしょうか。</p>
各 委 員	（ 異議なし ）
事 務 局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、河田委員に委員長をお願いしたいと思ひます。</p> <p>河田委員よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここからは河田委員長に議事進行をお願いしたいと思ひます。河田委員長、議事進行よろしくお願いいたします。</p>

河田委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、委員長を仰せつかりました河田でございます。委員の皆様のご協力を賜りまして、当部会の円滑な運営に努めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議事に戻ります。副委員長を選任についてですが、設置要綱第4条第3項で「委員長は、委員のうちから副委員長を指名する。」と規定されておりますので、前室崎員長の後任である矢守委員を副委員長として指名させていただきます。皆さまよろしいでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
河田委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは矢守委員、よろしくお願いいたします。</p>
矢守委員	<p>ありがとうございます。微力ではありますが、河田委員長をアシストし、また委員の皆様と協力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
河田委員長	<p>それでは、議題2に入ります。</p> <p>議題2として、「新型コロナウイルス感染症対応検証報告書(案)」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(議題2「新型コロナウイルス感染症対応検証報告書(案)」について説明)
河田委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今の説明について、何かご意見・ご質問はございますか。</p> <p>太田委員お願いいたします。</p>
太田委員	<p>日常の防災の出前講座で住民の方を対象として、色々な事を伝える中で、感染症の怖さ、地震をはじめ、いろいろな災害への備えの中に、感染症への備えをしっかりとしてくださいというような内容をしっかりと組み込んだ結果、実際に起こった新型コロナウイルス感染症において、皆さんが大変とされていた部分が浮かび上がってきて、私の話を聞いていただい</p>

	<p>た方々からいろんな電話とかメールが届いて、こういう準備をしといてよかったですっていうようなことがたくさん届けられました。</p> <p>ですので、こういったリスクコミュニケーションに関しては、住民一人一人に伝わるように、今後の大きな災害が起ころうとしている中で、またこれが複合的に起こってくる可能性もあることを考えると、やはりしっかりと感染症の怖さや対策等の周知をしていかないといけないのかなと思いました。</p>
河田委員長	<p>ありがとうございます。他にございますか。それでは、私から意見を述べさせていただきます。</p> <p>先ほどご紹介ありましたように、今年度の9月1日から司令塔が政府の方で発足したわけです。</p> <p>発足しましたが、ここで紹介していただいたような検証というのは全然行われていないわけです。</p> <p>ですから、どういうことをこれからそこでやっていただくのかっていうことを、考えていただかないといけませんので、この報告書をきちっと正本して配布するべきだと思います。</p> <p>それから、少し説明させていただきますが、感染症については、憲法に明記するという活動が政府主導で始まっております。</p> <p>ですから、今その活動を支えていただいている医療機関が非常に多岐にわたっています。医師だけではなく、現場の病院の薬剤師や看護師等、医療関係者がたくさん参加しています。そういうところに、この報告書を届けましたら効果があると思います。</p> <p>やはり、関西広域連合の位置付けが国の方でははっきりしていないので、報告書が活用されるという保証はないので、だから今、ニューレジリエンスフォーラムという国民運動が続いていますので、そこに関係するところにぜひ送っていただきたいと思います。</p> <p>これは行政中心に行っているわけじゃありません。各都道府県の医師会、病院の組織、看護師や薬剤師の組織等、非常に多岐にわたっています。</p> <p>リストのようなものも多分あると思いますので、そこへ発信しないと、せっかくのこの委員の皆様の努力が、単に政府の中での評価だけで終わってしまうともったいないと思います。</p> <p>感染症の実務をやられた組織にこの報告書がきちっと届くようにして</p>

	<p>いただいて、関西広域連合だけではなくあらゆる組織から政府に声が届くようにしていただきたいと、その点よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。ご指摘の通り我々今まで、国土の双眼構造ということで、防災庁の創設等の働きかけを行って参りました。</p> <p>今ご指摘いただいた点は、実際の現実に繋がるような目的でしたので、ぜひ実務を行っている様々な機関、団体にお送りさせていただいて、なおかつその双眼構造についても司令塔に組み込んでいただく、そういう観点で働きかけをやっていきたいと思ひます。</p>
河田委員長	<p>実は追い風が吹いています。</p> <p>というのは、感染症の関係者から、感染症を憲法に明記する際に、「感染症だけでは駄目だと、自然災害も一緒にやろうという」と向こうからのお誘ひがありました。</p> <p>感染症の関係者は今回のコロナの問題を3年間経験して、具体的にどうしないといけないということが、反省として出てきています。</p> <p>しかし、自分たちだけでは駄目だという思いがあり、自然災害も一緒にやってほしいというお誘ひが来ています。非常に積極的なアプローチをしていただいていますから、資料をお届けすることはとても効果があると思ひますのでよろしくお願ひします。</p> <p>他にございませんでしょうか。それでは議題2についてはこれまでとします。</p> <p>続いて、議題3として、「関西防災・減災プランの改訂案」について、事務局から説明をお願ひします。</p>
事務局	<p>(議題3 「関西防災・減災プランの改訂案」について説明)</p>
河田委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今の説明について、何かご意見・ご質問はございますか。</p>
木村委員	<p>兵庫県立大学の木村です。ご報告ありがとうございました。先ほどの検証報告書も含めて非常に網羅的にまとめていただいてありがとうございます。</p> <p>1つ、プランの内容についての細かいところはこの通りで良いと思ひま</p>

すが、要望がありまして、お願いしたいと思います。

検証報告書にもありましたが、平時からの広域の情報共有と訓練を、ぜひ、この新型コロナが治まった後もしっかりとやっていただけるようにプランの中身を確認して、しっかりと明記していただければと思っています。

理由は2点ありまして、1つはコロナが始まってすぐに私自身、兵庫県の方の感染症に対応した避難所運営ガイドラインをアドバイザーとして一緒に作ることになり、当時は国の基準もない、関西広域連合の中で特に何かそういう情報を共有している感じもなく、手探り状態で、県の災対本部の方とお話を続けながら、一つ一つの避難所運営の基準を作っていくたり必要な物資の計算をしたりということを行って参りました。

当初、それを各府県それぞれがバラバラにやっているような状況でして、何の知見の共有もなかったと、やはり非常に問題だと現場の人間としては思っています、今後同じようなことが起きた時、二度とこのようなことを起こしてはいけないということで、報告書にもあったその平時からの広域の情報共有、そして避難所運営の訓練も今いろんな市町村でも実施されるようになってきましたけれども、別に毎年やるかどうかは別でいいと思いますが、定期的に必ず感染症に対応したような訓練というものも、ぜひ関西広域連合の中で企画実施をしていただければというのがまず1点目です。

もう1点ですが、この新型コロナの前から、実はこの委員会の中でも何回か申し上げてきましたが、避難所等を広域で調整するとき、例えば衛生問題や健康問題等、トイレの設置が一番分かりやすいですが、トイレの設置基準が非常にあまり良くない、特に国連のスフィア基準と比べると、日本は遅れており、関西広域連合の調達体制や共有体制もまだまだ遅れているという現状があります。

コロナになってある程度こういった衛生面での対策が強化されましたが、計画を見ているとコロナが終わったからもう1回元に戻すみたいな形になりつつあるという気がしており、そこは別に全体論として否定しませんが、完全に元に戻してしまうのではなくて、もう一度、国連のスフィア基準にしても何にしても、この中でより良くなった手厚くなった対策はあると思いますので、引き継げるものについては、広域連合の中でどのように知見を共有するか、物資の誘導をするか等についてぜひ検討して、より

	<p>よい日避難者の方たち、人々の健康状態を確保していただきたいと思えます。</p> <p>先ほど河田委員長からも災害関連死の話もありました。やはり次被災者の方の避難者の方の質をどう確保していくかということにも、広域連合を今回のコロナの経験をもとに一步進めてもらいたいなと思えますので、その辺もご配慮いただければと思えます。以上です。</p>
河田委員長	<p>ありがとうございます。その他ございますか。それでは、私から少し発言させていただきます。</p> <p>コロナを3年経験し、具体的に法律の改正や憲法に感染症を明記する等、そういった活動につながっています。経験したからこのように具体的な活動につながっています。南海トラフや首都直下はこれから起こるものです。ですから、起こってからこのような検証をやって、これが足りない等では遅すぎます。我が国は必ず時後に充実するという伝統があります。事前には非常にそれが希薄だということです。</p> <p>感染症の関係者の方も失敗したとはおっしゃらない。というのは、アメリカで115万人亡くなり、日本の死者は74,500人ですので、もっと減らさないといけないと皆さん思っておられるので、色々なアクションが具体的にともなっているわけです。</p> <p>ですから、南海トラフや首都直下も起こってから同じようなことをやるのは当たり前ですが、幸いにまだ起こっていないので、起こったらどうするかではなく、起こる前に気がついて、従来の考え方を変えていくモチベーションを高めることに使っていただきたいと思えます。</p> <p>具体的に関西広域連合で感染症が起こってどうなったかという経験で踏まえて、どうするというだけでなく、本当に起ったらどうなるかということをしかりと考えて中身を変えていくという努力を是非お願いしたいと思えます。</p> <p>これは行政だけの問題ではなく、研究者にもそういうことが望まれます。防災研究も起こったことに対する解釈という成果は数多くありますが、被害を少なくする研究が殆どないのが現状です。</p> <p>一番肝心なことはやはり犠牲者を少なくするということですが、これは</p>

難しいです。特に若い研究者、そのような研究をあまりやってくれません。論文になることを一生懸命やっていただくのは良いですが、難しいことを避けていると成果が上がりません。そんなことやっていると手遅れになる可能性があります。ですから、これをきっかけに、防災研究の方がいかにして犠牲者を減らすかということにもっと注力をしなきゃいけないということも関西広域連合の方から言って頂いても良いと思います。

今、研究成果の評価は非常に難しくなっており、査読付きの論文をださないといけないとなっている状態では解決できそうな問題を取り上げるということになってきています。若い研究者には南海トラフや首都直下が起こった時に、どのように被害を減らすのかといった実践的な研究が重要ですので、そういう事も関西広域連合から発信していただきたいと思いません。

そうしないと、災害が起こると新しい研究を予算が付くのでやりますが、だんだんそれが少なくなってきています。もう震災から28年になり、まだやるのかという風潮が出てきていますので、そうではなく新しい事実を見つけていただかないといけないと思います。ぜひこのコロナの検証報告書をベースにこういう防災研究をやらないといけないということも発信していただきたい。そうしないと関心が薄くなるということがとても懸念されます。特に防災分野では、例えば大学院の学生の数が減ってきています。それだけ関心が薄くなってきており、これでは困りますので、これを機会に、本当に大変な被害になる南海トラフや首都直下の被害どのように減らすかということをもっとしっかりと研究してくださいというメッセージを関西広域連合から出していただいたら、この検証報告書が間接的にそのような研究の必要性を訴えることに大きな役割を果たすと思いますので、よろしくお願いします。

その他いかがでございますか。

せっかくの機会ですから、もしご意見があればよろしくお願いします。

はい、矢守委員お願いいたします。

<p>矢守委員</p>	<p>矢守です。1点だけ発言させていただきます。キーワード、複合災害についてです。この複合災害は河田委員長からもご指摘あったように、起こる前に、しっかりイマジネーションをしておくということに重点を置いて改訂にあたり記述をしても良いのではないかと思います。</p> <p>一例ですが、今年、関東大震災から100年ですけれども、その行動の中でも取り上げられていたように、100年前の9月1日から2日にかけて、日本付近を台風が通過しました。その台風が地震によって起きた火災をより深刻なものにしているという一面があります。こうした地震災害と台風、あるいはすでに経験済みですけど、パンデミックと自然災害が重なるようなケース、それからこのところ数年間、毎年1500人程度熱中症で、日本社会は人が亡くなっています。その熱中症が大変深刻であるような季節に南海トラフが起こったらどうなるのということも考える必要があります。</p> <p>先ほどもご紹介あった武力有事と自然災害の重複等、こういったものはあんまり考えたくはないですが、実際に起こってから反省しても、検証しても仕方がないと思います。</p> <p>しかも今のいくつかの重なり、オーバーラップということは実際にも起きているので、空想的なシナリオではありませんのでこの複合ということもキーワードにすることにより、プランを充実させていくということは大切ではないかと思いました。以上です。ありがとうございました。</p>
<p>河田委員長</p>	<p>他にございませんでしょうか。それでは議題3についてはこれまでとします。</p> <p>本日予定していた議題は全て終了しました。何か全体を通して等、ご意見・ご質問はございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは事務局から何か連絡事項等はございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局より「プラン改訂スケジュール」について報告)</p>
<p>河田委員長</p>	<p>ただいまの事務局からの連絡事項について、何かご意見・ご質問はございますか。</p>

	<p>よろしいでしょうか。それでは進行を事務局へお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>河田委員長、議事進行ありがとうございました。 委員の皆さまも、熱心なご議論及び貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>本日の意見等を踏まえ、改訂案を作成してまいります。</p> <p>本日の会議結果につきましては、議事録を作成させていただき、委員の皆さま、幹事及びオブザーバーの皆に共有させていただきます。議事録作成にあたりましては、ご発言いただきました委員の皆さまに、後日、発言内容の確認をお願いしたく考えておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>第2回の計画策定員会の開催等については、調整後、委員の皆さま及び関係団体にご連絡させていただきます。</p> <p>それでは、これもちまして、会議を終了します。</p> <p>本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。 リモート参加の皆さまも適宜ご退出ください。</p>